

すばる望遠鏡戦略枠観測「SEEDS」による原始惑星系円盤および系外惑星探査 IV

P217a

工藤智幸、田村元秀、神鳥亮、臼田知史(国立天文台)、葛原昌幸(東工大)、橋本淳(オクラホマ大)、松尾太郎(京大)、SEEDS/HiCIAO/AO188 team.

「すばる望遠鏡戦略枠」とは他の追従を許さないユニークな観測装置(またはその組み合わせ)を用い、個人または個別グループの研究課題を超えて、長期に渡るまとまった観測を行おうというものである。2008年7月、系外惑星・円盤探査の大規模サーベイ「SEEDS(Strategic Exploration of Exoplanets and Disks with Subaru)」が初めてのすばる戦略枠として採択され、2009年10月に観測が開始された。

本観測は主にHiCIAOと呼ばれる高コントラスト赤外線撮像装置と補償光学系AO188との組み合わせで行っている。HiCIAOは常温のコロナグラフ機構と差分光学系を備え、AO188と組み合わせることで、すばるの回折限界の空間分解能と、明るい中心星から0.1~1秒角の範囲で4~6桁の高コントラスト達成している。SEEDSでは、5年間で約500個の太陽質量程度の若い天体(年齢10億年以下)の撮像サーベイを行う。本プロジェクトは天体の種類によっていくつかのカテゴリーに分かれており、原始惑星系円盤の形態を0.06"程度の解像度で中心星のごく近傍(約0.1")まで解明し、さらに若い星近傍における木星質量程度の系外惑星を直接検出することを目標としている。

2013年12月11日現在、29回のラン(計107夜)により、約420天体が観測でき、円盤の付随を示唆する数多くの新しい結果や、未知の伴星候補天体の検出にいくつも成功している。本講演では、これまでの4年間に渡るSEEDS戦略枠全体のまとめと最新情報、そして最終年度に向けた展望について報告する。